

2 - 2 将来人口推計（地域・地区別）

1. 推計方法

市内 15 地区について、市全体と同様の推計期間、基準人口、推計方法、推計シナリオにより、地区別の将来人口推計を行い、その傾向分析については、15 地区の推計結果をまとめた 5 つの地域により行うものとした。

なお、推計パラメータの基準値の考え方は市全体推計に準じるものとしながら、地区ごとには数値の誤差などを考慮してそれぞれ設定するものとした。

図 2-2-1 地域・地区の区分

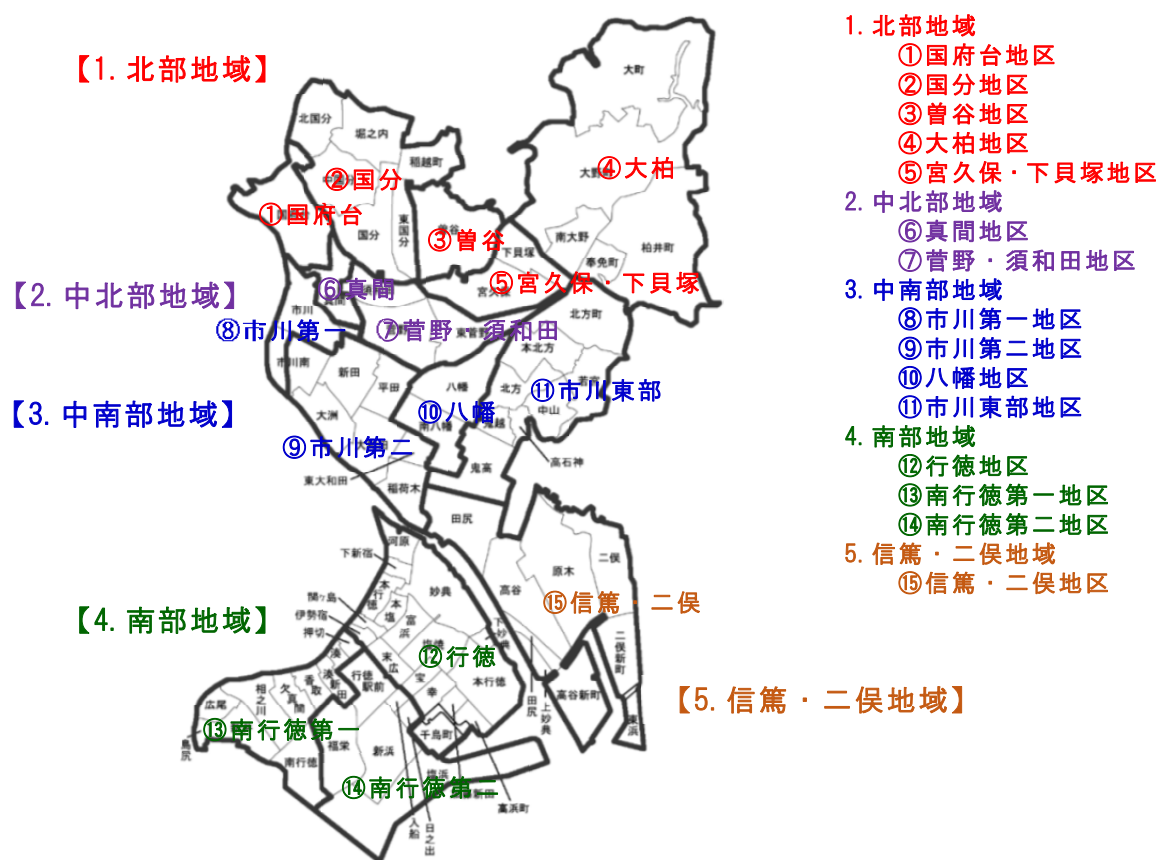


表 2-2-1 地区別推計における推計パラメータの基準値の考え方

パラメータ	地区ごとの基準値の考え方
出生率	市内 3 地域(北部地域、中部地域(中北部地域及び中南部地域)、南部地域(南部地域及び信篤・二俣地域))ごとに設定
純移動率	各地区(15 地区)ごとに設定
生残率	各地区(15 地区)一律で設定(市全体と同値)
出生性比	各地区(15 地区)一律で設定(市全体と同値)

2. 推計結果

地域別の推計結果については、推計シナリオのうち、シナリオ 1 およびシナリオ 3 についてまとめ、比較分析を行うものとした。

1) 地域別の総人口

本市の地域別の総人口は、現在のままの状況が継続するものと仮定して推計を行っていくと、各地域で人口は減少し、平成 72 年（2060 年）には、

- ・ 北部地域 6.1 万人（平成 27 年比△4.3 万人・増減率△41.1%）、
- ・ 中北部地域 2.1 万人（平成 27 年比△1.0 万人・増減率△32.2%）、
- ・ 中南部地域 11.7 万人（平成 27 年比△3.3 万人・増減率△22.1%）
- ・ 南部地域 11.3 万人（平成 27 年比△4.6 万人・増減率△28.9%）、
- ・ 信篤・二俣地域 1.9 万人（平成 27 年比△1.1 万人・増減率△36.9%）

となることが予想された。（シナリオ 3【基準値維持モデル】）

また、施策の効果が発揮され、出生や定住に対する市民の希望がかなった場合を仮定すると、平成 72 年（2060 年）には、

- ・ 北部地域 7.0 万人（平成 27 年比△3.4 万人・増減率△32.9%）、
- ・ 中北部地域 2.4 万人（平成 27 年比△0.7 万人・増減率△21.8%）、
- ・ 中南部地域 13.5 万人（平成 27 年比△1.5 万人・増減率△9.9%）
- ・ 南部地域 13.9 万人（平成 27 年比△2.0 万人・増減率△12.7%）、
- ・ 信篤・二俣地域 2.1 万人（平成 27 年比△0.8 万人・増減率△27.8%）

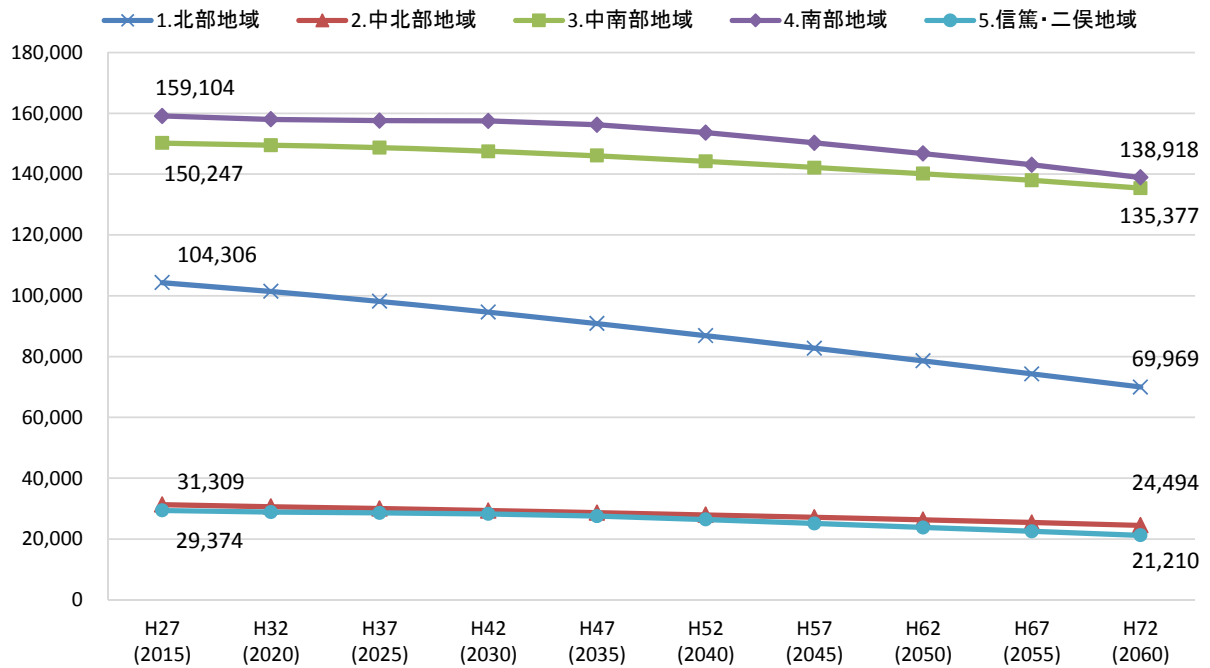
となることが予想された。（シナリオ 1【市民希望達成モデル】）

市全体推計では、平成 27 年と比べた平成 72 年の推計結果として、シナリオ 1【市民希望達成モデル】では増減率△17.8%、シナリオ 3【基準値維持モデル】では増減率△30.1%となった。

増減率の比較では、中南部地域で約 8 ポイント、南部地域で約 1～5 ポイント、市全体よりも減少幅は小さい。

一方で、北部地域で約 11～15 ポイント、中北部地域で約 2～4 ポイント、信篤・二俣地域で約 7～10 ポイントと減少幅が大きく、特に北部地域および信篤・二俣地域において、人口減少が著しいことが予想された。

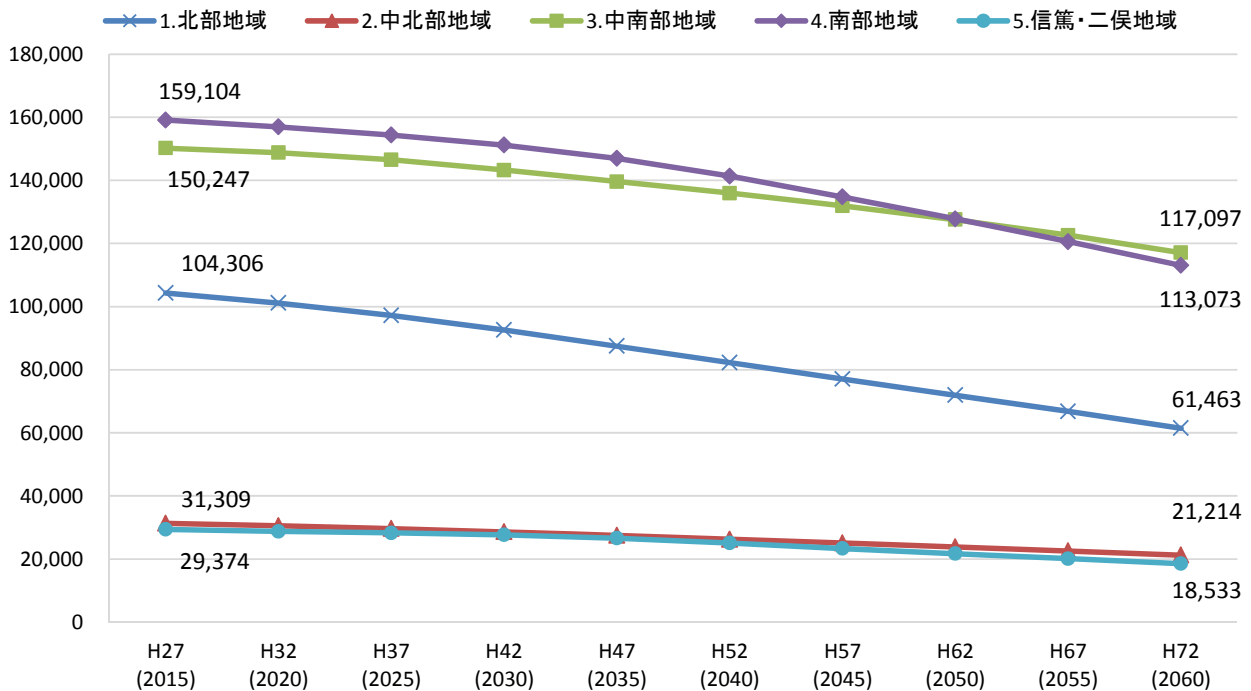
図 2-2-2 表 2-2-2 各地域の人口推計結果（シナリオ 1【市民希望達成モデル】）



(単位：人)

	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
1. 北部地域	104,306	101,438	98,168	94,641	90,892	86,875	82,744	78,577	74,321	69,969
2. 中北部地域	31,309	30,654	30,019	29,338	28,670	27,949	27,155	26,316	25,433	24,494
3. 中南部地域	150,247	149,516	148,694	147,519	146,080	144,228	142,131	140,123	137,964	135,377
4. 南部地域	159,104	157,993	157,593	157,465	156,252	153,621	150,294	146,773	143,079	138,918
5. 信篤・二俣地域	29,374	28,889	28,600	28,246	27,531	26,417	25,100	23,784	22,506	21,210

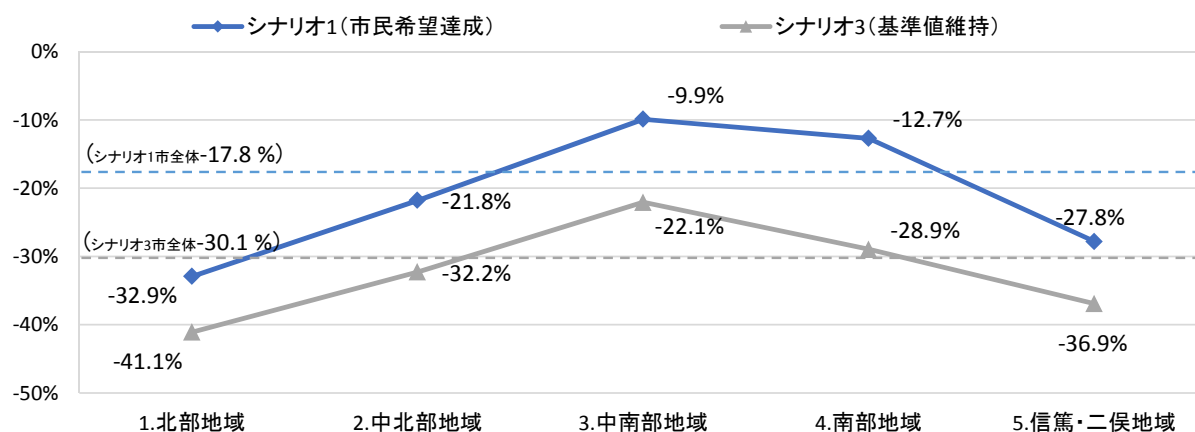
図 2-2-3 表 2-2-3 各地域の人口推計結果（シナリオ 3【基準値維持モデル】）



(単位：人)

	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
1. 北部地域	104,306	101,158	97,217	92,607	87,517	82,218	77,024	71,967	66,832	61,463
2. 中北部地域	31,309	30,549	29,686	28,622	27,476	26,292	25,091	23,875	22,597	21,214
3. 中南部地域	150,247	148,799	146,551	143,249	139,641	135,978	131,922	127,544	122,632	117,097
4. 南部地域	159,104	156,949	154,362	151,207	146,953	141,366	134,791	127,812	120,588	113,073
5. 信篤・二俣地域	29,374	28,755	28,289	27,686	26,593	25,052	23,347	21,692	20,107	18,533

図 2-2-4 現在（平成 27 年）と比較した平成 72 年（2060 年）における推計人口の増減



2) 地域別の年齢3区分別人口

(1) 北部地域

北部地域については、平成 72 年（2060 年）には、シナリオ 1【市民希望達成モデル】の推計で、

年少人口 0.8 万人（平成 27 年比△0.5 万人・増減率△39.2%）、
生産年齢人口 3.6 万人（平成 27 年比△2.7 万人・増減率△43.1%）、
老年人口 2.5 万人（平成 27 年比△0.2 万人・増減率△ 5.7%）、

また、シナリオ 3【基準値維持モデル】の推計で、

年少人口 0.6 万人（平成 27 年比△0.8 万人・増減率△60.5%）、
生産年齢人口 3.1 万人（平成 27 年比△3.2 万人・増減率△50.9%）、
老年人口 2.5 万人（平成 27 年比△0.2 万人・増減率△ 7.8%）、
となった。

シナリオ 3 のように、現在の出生率と社会移動率で推移すると、年少人口は現在の 4 割程度、生産年齢人口も現在の半分程度まで減少するものと予想された。市全体と比較して、減少幅は約 8～13 ポイント程度大きいものとなっている。

一方で、老年人口は市全体では現状より増加する推計結果となったが、北部地域では、平成 52 年（2040 年）をピークに減少傾向に転じ、現在より 8%程度老年人口が減少する推計結果となった。

図 2-2-5 年齢 3 区分別人口推計結果（北部地域：シナリオ 1）

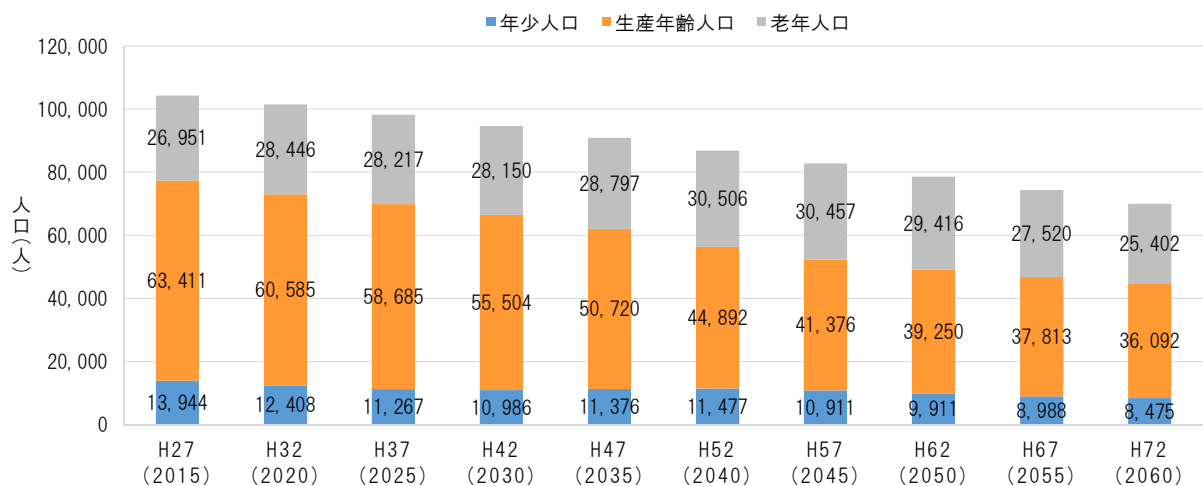
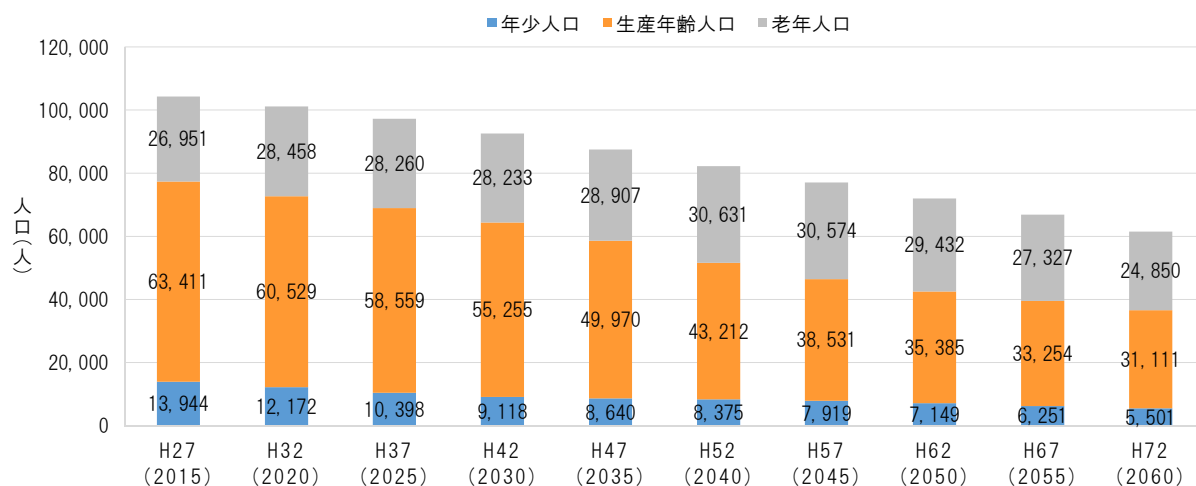


図 2-2-6 年齢 3 区分別人口推計結果（北部地域：シナリオ 3）



（２）中北部地域

中北部地域については、平成 72 年（2060 年）には、シナリオ 1【市民希望達成モデル】の推計で、

年少人口 0.3 万人（平成 27 年比△0.1 万人・増減率△15.6%）、
 生産年齢人口 1.3 万人（平成 27 年比△0.6 万人・増減率△31.1%）、
 老年人口 0.8 万人（平成 27 年比△0.01 万人・増減率△1.6%）、

また、シナリオ 3【基準値維持モデル】の推計で、

年少人口 0.2 万人（平成 27 年比△0.2 万人・増減率△44.6%）、
 生産年齢人口 1.2 万人（平成 27 年比△0.8 万人・増減率△40.1%）、
 老年人口 0.7 万人（平成 27 年比△0.1 万人・増減率△6.5%）、
 となった。

中北部地区では、年少人口および生産年齢人口については、市全体とほぼ同様の減少率により推移するものと推計された。

一方で、老年人口については、市全体では現状より増加する推計であるが、中北部地域では、現在より若干減少するという推計結果となった。

図 2-2-7 年齢 3 区分別人口推計結果（中北部地域：シナリオ 1）

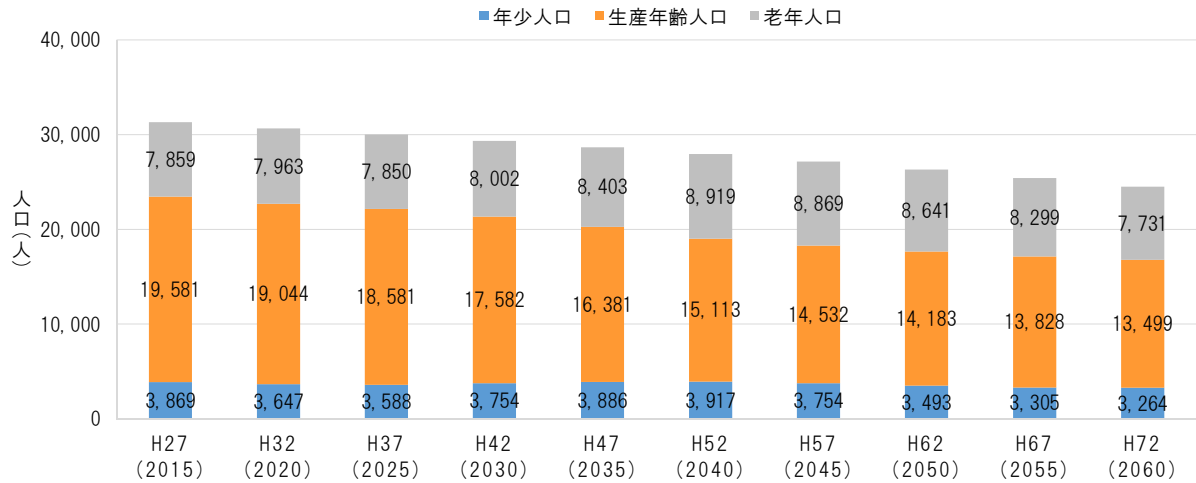
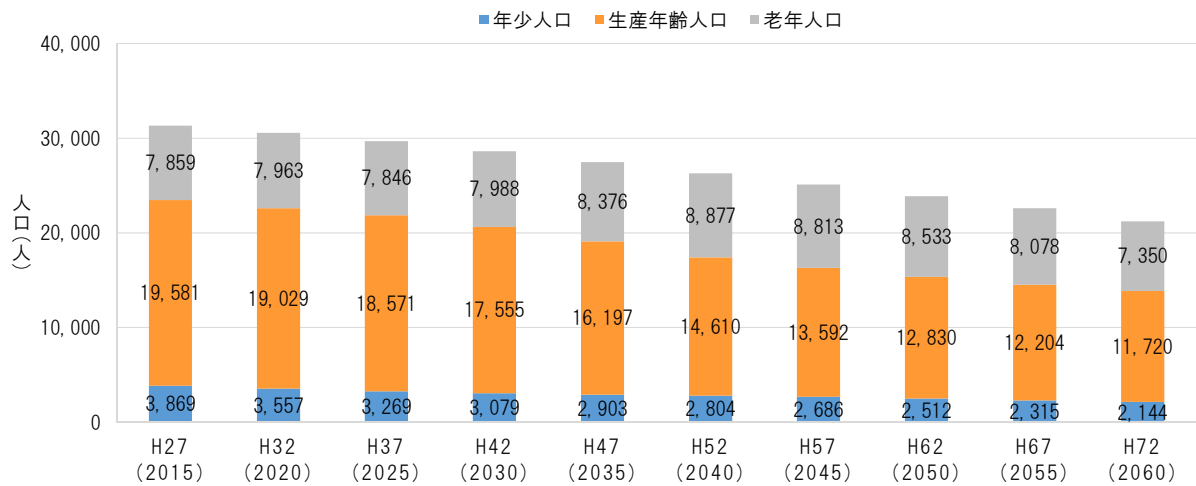


図 2-2-8 年齢 3 区分別人口推計結果（中北部地域：シナリオ 3）



（3）中南部地域

中南部地域については、平成 27 年（2015 年）には、シナリオ 1【市民希望達成モデル】の推計で、

年少人口 1.8 万人（平成 27 年比+0.1 万人・増減率+6.5%）
 生産年齢人口 7.6 万人（平成 27 年比△2.5 万人・増減率△24.6%）
 老年人口 4.1 万人（平成 27 年比+0.9 万人・増減率+26.7%）

また、シナリオ 3【基準値維持モデル】の推計で、

年少人口 1.2 万人（平成 27 年比△0.5 万人・増減率△29.4%）
 生産年齢人口 6.6 万人（平成 27 年比△3.4 万人・増減率△34.1%）
 老年人口 3.9 万人（平成 27 年比+0.6 万人・増減率+18.8%）
 となった。

シナリオ 3 のように、現在の出生率と社会移動率で推移した場合でも、年少人口、生産年齢人口ともに現在の 7 割程度になるものと予想された。減少幅は、市全体と比較して 9～18 ポイント程度が小さく留まっており、5 つの地域のなかでは、最も年少人口・生産年齢人口が確保されることが予想された。

図 2-2-9 年齢 3 区分別人口推計結果（中南部地域：シナリオ 1）

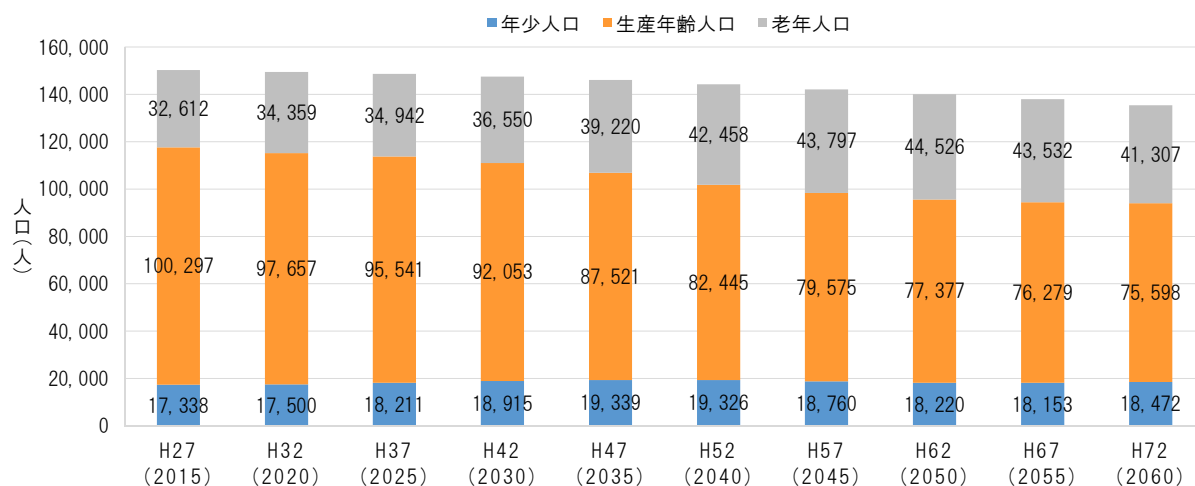
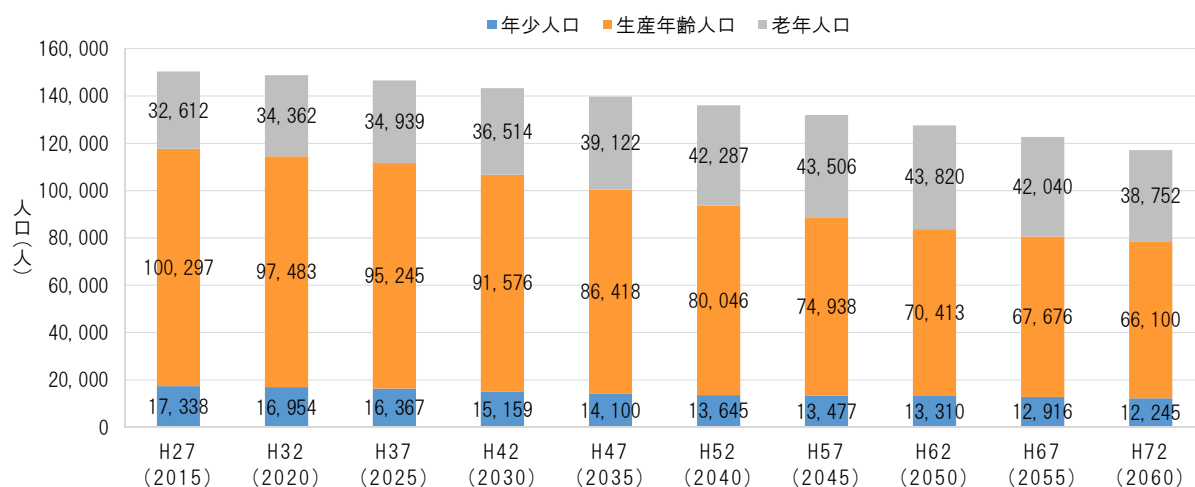


図 2-2-10 年齢 3 区分別人口推計結果（中南部地域：シナリオ 3）



（４）南部地域

南部地域については、平成 72 年（2060 年）には、シナリオ 1【市民希望達成モデル】の推計で、

年少人口 1.7 万人（平成 27 年比△0.4 万人・増減率△18.1%）、
 生産年齢人口 7.7 万人（平成 27 年比△3.9 万人・増減率△33.5%）、
 老年人口 4.5 万人（平成 27 年比+2.2 万人・増減率+95.9%）、

また、シナリオ 3【基準値維持モデル】の推計で、

年少人口 1.0 万人（平成 27 年比△1.1 万人・増減率△50.9%）、
 生産年齢人口 6.3 万人（平成 27 年比△5.2 万人・増減率△45.4%）、
 老年人口 4.0 万人（平成 27 年比+1.7 万人・増減率+73.0%）、

シナリオ 3 のように、現在の出生率と社会移動率で推移すると、年少人口および生産年齢人口は現在の 4~5 割程度まで減少するものと予想された。市全体と比較して、減少幅は 2~3 ポイント大きい程度であり、全体傾向と大きく変わらないことが予想された。

一方で、老年人口は現在の 1.7 倍程度まで上昇することが見込まれ、市全体と比較して、増加幅は約 49 ポイント高い。

現在、南部地域は、市全体と比べて、生産年齢人口が多く、老年人口が少ない構成となっている。このため、多くの生産年齢人口が、将来的には老年人口に移り変わっていくことから、老年人口の急増が推計されたものと考えられ、市全体を大きく上回る推移で老年人口が増加し、5 地域のなかで最も急速に高齢化が進行することが予想された。

図 2-2-11 年齢 3 区分別人口推計結果（南部地域：シナリオ 1）

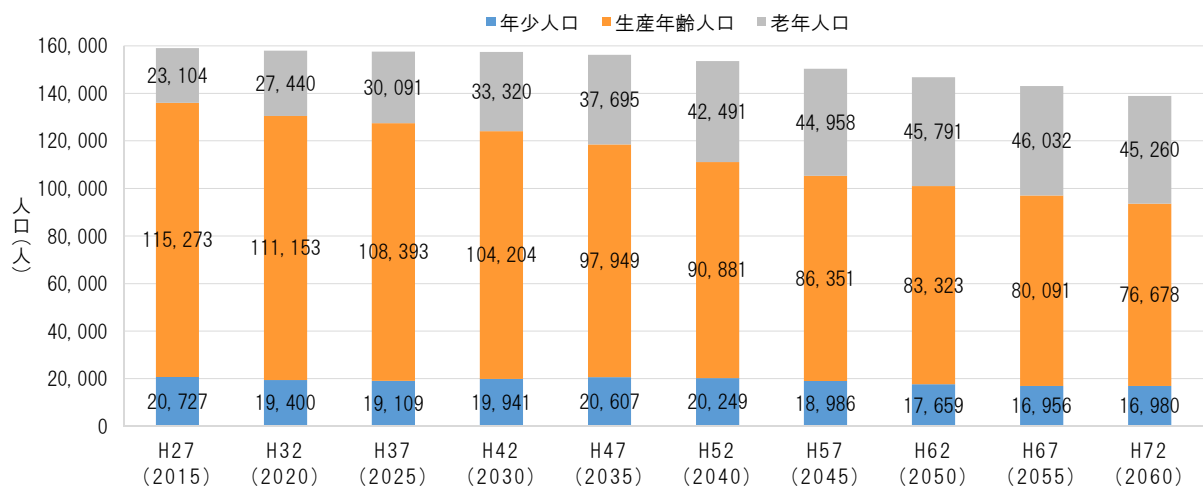
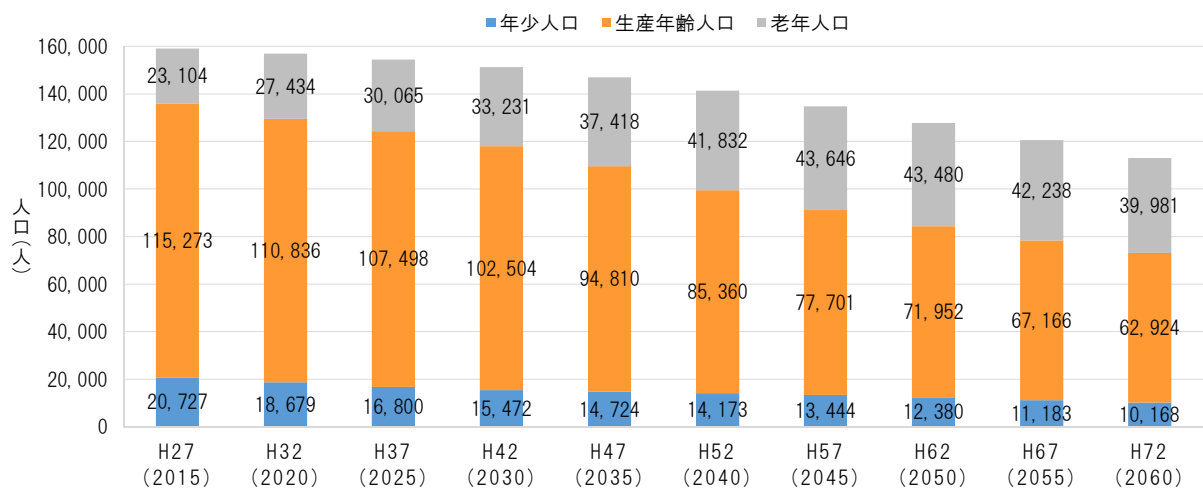


図 2-2-12 年齢 3 区分別人口推計結果（南部地域：シナリオ 3）



（5）信篤・二俣地域

信篤・二俣地域については、平成 72 年（2060 年）には、シナリオ 1【市民希望達成モデル】の推計で、

年少人口 0.2 万人（平成 27 年比△0.2 万人・増減率△47.1%）
 生産年齢人口 1.2 万人（平成 27 年比△1.0 万人・増減率△45.1%）
 老年人口 0.8 万人（平成 27 年比+0.3 万人・増減率+66.8%）

また、シナリオ 3【基準値維持モデル】の推計で、

年少人口 0.1 万人（平成 27 年比△0.2 万人・増減率△66.8%）
 生産年齢人口 1.0 万人（平成 27 年比△1.1 万人・増減率△50.7%）
 老年人口 0.7 万人（平成 27 年比+0.2 万人・増減率+49.9%）
 となった。

シナリオ 3 のように、現在の出生率と社会移動率で推移すると、年少人口は現在の 3 割程度、生産年齢人口も現在の半分程度まで減少するものと予想された。この減少幅は、市全体と比較して 8～19 ポイント大きいものとなっている。

一方で、老年人口は現在の 1.5 倍程度まで上昇することが見込まれ、市全体と比較して、増加幅は約 26 ポイント高い。

このように、信篤・二俣地域は、市全体を上回る推移で年少人口、生産年齢人口が減少し、市全体を大きく上回る割合で老年人口が増加することが予想された。

図 2-2-13 年齢 3 区分別人口推計結果（信篤・二俣地域：シナリオ 1）

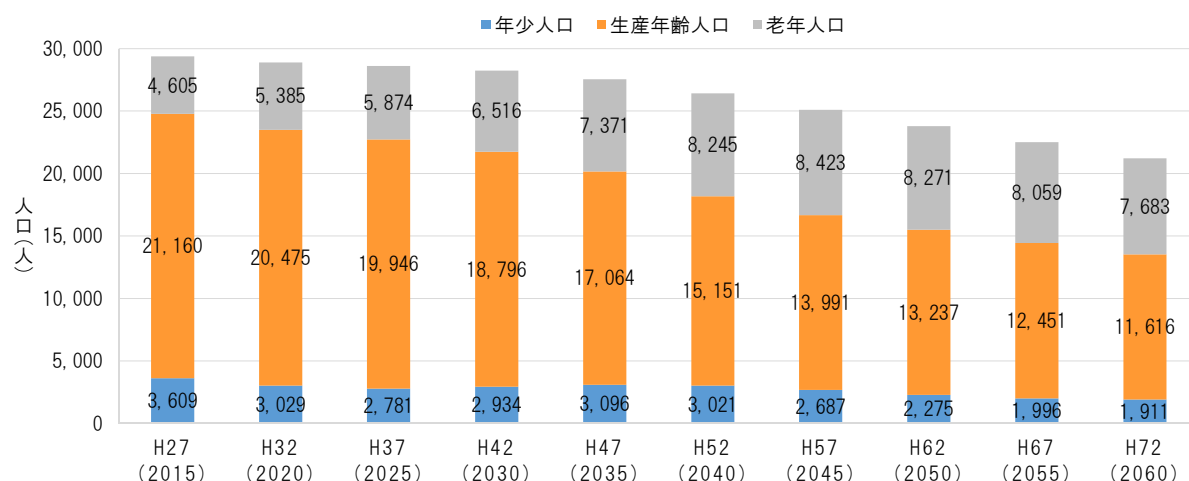


図 2-2-14 年齢 3 区分別人口推計結果（信篤・二俣地域：シナリオ 3）

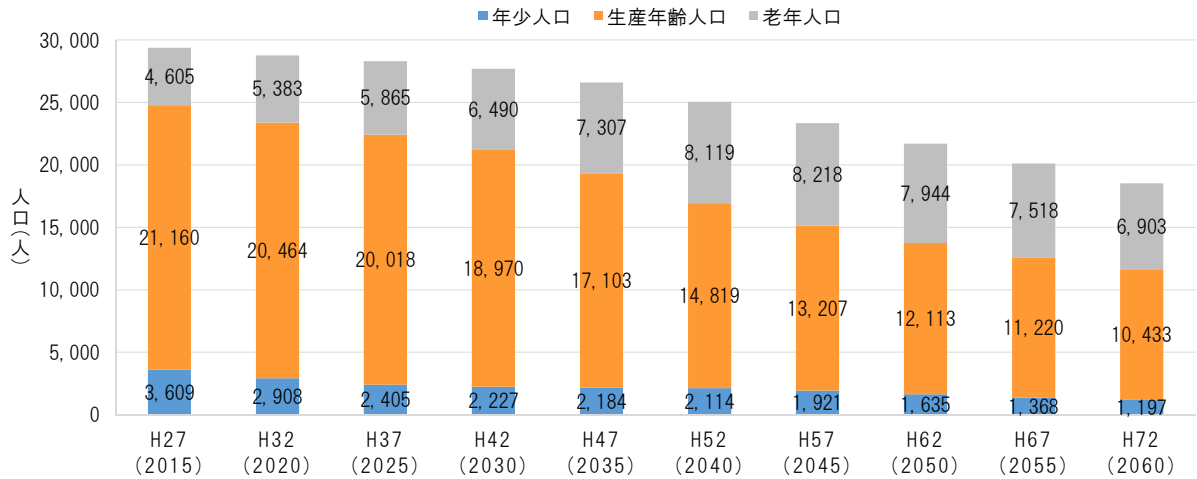


図 2-2-15 現在（平成 27 年）と比較した平成 72 年（2060 年）における年少人口の増減

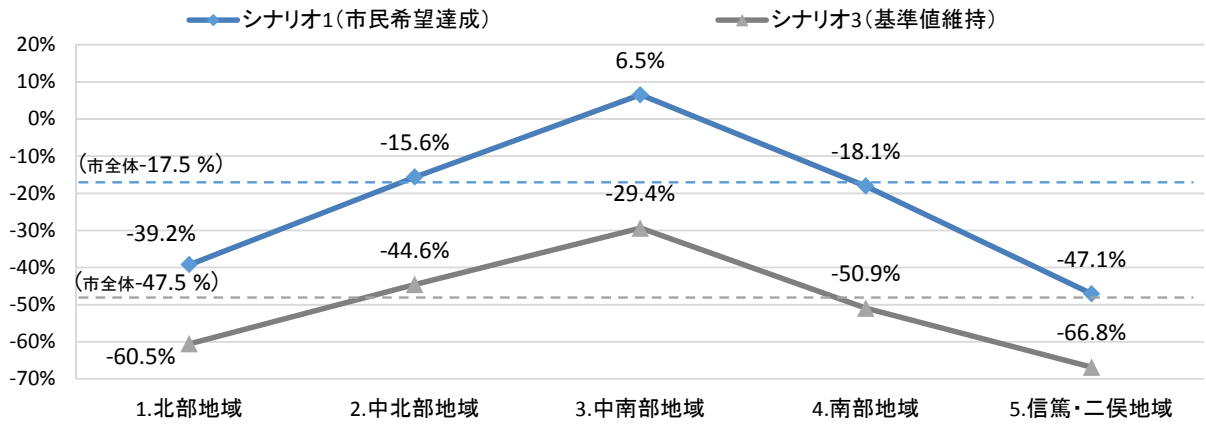


図 2-2-16 現在（平成 27 年）と比較した平成 72 年（2060 年）における生産年齢人口の増減

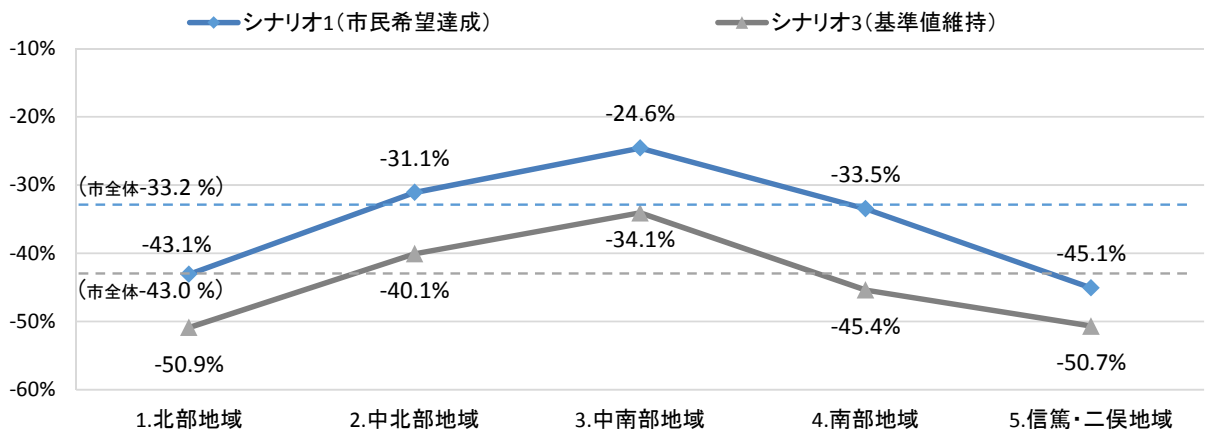


図 2-2-17 現在（平成 27 年）と比較した平成 72 年（2060 年）における老年人口の増減

